

No.7207「園で取り組む不適切保育の防止」

ディスカッション用手引き

関係者で不適切保育について話し続ける意識をつくる

複数で取り組む場合には話し合っていますが、個人で取り組む場合は、個人で考えてください。

- 【1】 不適切な保育について話し合うことの難しさを話し合い、あえて関係者で話し続けるためにはどうすればよいかを話し合いましょう。特に、経験年数、保育観がどのような人でも平等に話せるようにするためには、どうすればよいでしょうか。
- 【2】 保育者どうしで気になる保育・教育があった場合、関係者でどのように話し合えばよいでしょうか。保育者の意図だけではなく、状況や背景、価値観まで含めた話し合いを実現するために必要なことは何か、個人で考えたのち、園全体で話し合いましょう。
- 【3】 最近の気になる子どもについて、子ども自身と行為に分け、子どもの人格を尊重したうえで、その子の行為について情報を共有してみましょう。

【手引き】

保育・教育は保育者個人の保育観のもとで行われますが、園（集団）で考え続けることが大切です。そのとき、保育観は一人ひとり異なることがデフォルトであることは前提であり、だからこそ、自分の保育観を他の保育者に押し付けることなく、アサーティブなかかわりを実践し、全員で“話せる”雰囲気づくりが大切です。そして、自分たちの日々の保育・教育を振り返るときには、意図や保育観だけではなく、その時の状況や背景なども含めて話し合い、判断していくことが必要です。また、子どもを観るときには、子ども自身の人格と行為を切り分け、人格を尊重する心構えが根付くことで、不適切な保育の防止につながるでしょう。